

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>愛の会独自の理念を掲げている。また、理念に基づいて処遇するように全職員が努めている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念に基づいて行動できるように職員全員に理念に基づいての資料を配布し、また廊下や事務所など見やすいところに掲示しており、いつでも確認できるようにしている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>2ヶ月に1回のGH運営推進会議や年2回の家族交流会・面会時などに、利用者が地域の中で暮らし続けることの大切さを理解していただけるよう取り組んでいる。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>利用者と散歩に行く時など、外に出る際挨拶をしている。</p>	<p>○</p> <p>気軽に声をかけ合い、付きあっているような関係を目指したい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>敬老の日に各利用者の住所がある地域の敬老会へ参加している。また、近くの双葉台保育所の子供達とも行事に招待したり、されたりしている。地域の子供会の資源ごみ回収にも参加している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>認知症ケア専門士を中心に地域の方々に「認知症という病気」について、どうサポートしていけばよいかなど、地域の方々に役立てるように取り組んでいきたい。</p>
<b>3. 理念を实践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>職員全員が理解し、ご家族の相談にいつでも応じられるようにしていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>資料閲覧だけにとどまらず、施設内でも研修など行って、虐待が見過ごされる事がないように努めたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には、利用者やその後家族の不安や疑問に対して詳しく説明し、理解・納得していただけるようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見や要望を気軽に話しやすいように、こちらから声かけを増やしている。また、隣接しているデイサービスなどと交流した際、それとなく話せるような雰囲気を作っていただけをお願いしていることもある。	
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回出納帳のコピーし、家族通信で近況を伝え、それを送付している。体調不良時などは、その都度連絡している。また、面会時にも近況は必ず伝えている。購入する物によっては、必ずご家族の承認をいただいている。定期的に法人の広報誌を配布している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が、意見や要望を気軽に話しやすいようにこちらから声をかけている。また、年に2回の家族交流会で意見交換を行うほか、面会時だけでなく、必要に応じて電話などでご意見を伺うこともある。	
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設全体の全体会議・GH全体会議・ユニットスタッフ会議、その他随時、意見や提案を聞く機会を設け、反映するようにしている。半期に1度の人事考課制度の中でも、意見や考えを述べられる。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に合わせて、必要な時間に職員が確保出来るように調整している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の混乱が極力少なくなるように配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加できるように運営者から働きかけたり、職員から参加したい研修があれば、考えを伝え、参加できるようにしている。	○	OJTについても進めているので、スーパーバイザーとなる職員を増やしていけるようにしたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨城県認知症高齢者グループホーム協議会・水戸市認知症高齢者グループホーム協議会などの研修を通じて勉強会、ネットワーク作りを行っている。また、同一法人内にあるGHとも情報交換を行い、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。	○	全職員が交流できるような機会はまだ少ないので、相互訪問・勉強会などを行い、サービス向上に努めたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	バレーボール・ゴルフ・ボーリング・忘年会などを定期的に行い、リフレッシュできるようにしている。また、悩み等を聞けるような環境づくりをしている。 福利厚生センター・水戸市勤労福祉サービスセンターなどに会員登録しており、福利厚生の充実を図っている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人で人事考課制度を導入している。個々が、自分自身を省みて面接を経て評価されるもので、目的を持って仕事に向かう事ができ、頑張ったら報われる仕組みを整えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一対一で話す機会を設けたり、どんな不安があるのか傾聴するように心掛け、少しでもその不安をやわらげるような暖かい声かけをするように心掛けている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期段階は特に、不安や要望など話しづらい面もあると思うので、ご家族等が私たちに求めるものは何かを感じながら、こまめに連絡して話し合い、良い信頼関係が築いていけるようにしていく。	○ 小さなことでも相談できるような環境づくりを、引き続き考えて行きたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族等が本当に求めるサービスは何かを先ずよく話し、プロとしてその方に合うサービス・ご家族等が安心して納得できるものをアドバイスしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービス利用時や見学時などに、他の利用者や職員と話しやすい雰囲気を作るようにしている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	それぞれの利用者に合わせて、出来る事は行っただけ、介護されているという気持ちを軽減するように心掛けている。同じ空間で一緒に生活していくことで、職員と利用者という関係以前に、人生の先輩に対してのよりよい関係を作っているようにしている。	○ 今後も一緒に過ごししながら、利用者の方々からいろいろなことを学び、支えあえるような関係を継続していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは、共に処遇を考えて頂けるように連絡を密に取り、アドバイスを頂ける関係を築く様になっている。ご家族のご希望に合わせ、通院や誕生日・散歩などご家族・職員と一緒に外出することもある。	○	小さいことでも気づいたことは話し合い、支えていける関係を継続していきたい。 日頃の利用者のごく自然な姿の写真を家族通信に同封し、一緒に支えていける関係のきっかけの一つにしている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時や電話連絡だけでなく、職員がサマリーなどを繰り返し読み込む事で、関係性を理解するように努め、良い関係が維持できるように働きかけている。		ご家族と利用者が良い関係を継続できるような支援をしていく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ入居後も、馴染みの関係が継続できるように、自由に会いに行ったり来たりするほか、馴染みの場所や店に外出できるように支援している。	○	時間などに制約される事なく、これまでの関係を継続できるような支援体制でいたい。
31 ○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	コミュニケーションを積極的に行い、利用者同士が支えあえるような橋渡しを行っている。また、気の合う方同士で、穏やかに過ごせるような座席の配慮などもしている。	○	
32 ○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了後も、葬儀などに職員が参列している。また、ご家族と会った時は、挨拶して下さったり、近くまで来た時には寄って下さったりしている。他施設へ転居された方に面会に行くことも行っている。		出来る限り、関係を断ち切らないような付き合いを継続したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一対一で話す機会を作り、その中でご希望や意向を聞き、取り入れていけるようにしている。また、意思表示が出来ない方については、ご家族等と話し合い、職員間で話し合い、なるべくご本人の本意に近づけるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に必ずバックグラウンドを取りどのような生活環境だったか、これまでの経緯などの把握に努めている。また、入居後もご本人やご家族から聞き出せたことについては、センター方式に記入できるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日バイタルチェックをし、心身の状態を把握するように努めている。また、プラン作成時にはセンター方式で日常の様子をアセスメントし、職員全員が把握できるようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者と一対一でご希望を聞いたり、ケース会議に参加していただき、直接意見を伺っている。また、意思表示が出来ない方については、ご家族等や関係者などと相談し、それを基に職員間で話し合っ作成している。	○	よりよいプラン作成が出来るように話し合いを更に重ねていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	なるべく月に一回はモニタリングしている。必ず3ヶ月に1回は作成している評価を詳細に行い、定期的に見直している。ADLの変化に合わせ、ご家族等と話し合い、ケース会議を重ねて現状にあったプラン作成をしている。	○	実際の介護にあった計画になっているか常に考えながら、プラン作成していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や処遇は個別に記入している。また、ケアの気づきや工夫については、申し送りノートやケース会議・全体会議等で情報共有し、プラン作成に生かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接しているデイサービスや近くにある法人内のケアハウスなどと協力しながら、様々なサービスを行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年に数回開催される防災訓練の際、消防のご協力を経ている。民生委員には、運営推進会議のメンバーとなって頂いており、ご協力を頂いている。また、近くのボランティア受け入れや、ヘルパーの実習受け入れなども行っている。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人やご家族等の要望に応じて、他のサービス（福祉用具・デイサービスなど）を利用する場合は、相談や紹介などしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	水戸市の委託により窓口センターが隣接しているので、その窓口により、地域包括支援センターと協働している。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	これから、重度化していく利用者が増えていくと思われるが、全利用者に終末期のあり方を話し合う事は難しい。なるべく早めにそれとなく意向を聞き出せれば良いと思っている。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	新職員にも終末期に向けてチームで支援していくことの大切さがわかってもらえるような話し合い・準備をしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>他の施設へ転居される場合は、ご家族や転居先の施設職員に十分な情報交換を行い、ご本人が最小限のダメージで住み替えできるように努めている。</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>ご本人の誇りを考えた言葉を選んで、その方に合わせた声かけを行っている。記録に関しても個人情報保護を心掛けて行っている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>自分の思いや、希望を出せるようにコミュニケーションを図り、それぞれに合わせた説明をして、自己決定できるように支援している。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>それぞれの利用者に合わせ、出来るだけご本人の希望に合った生活・ご本人のペースで生活をしていけるように努めている。</p>	○	それぞれの利用者だけでなく、その日の利用者の状況にも合わせて支援している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>ご希望に合わせて、馴染みの美容室や理容室に出かけている。特にご希望が無ければ、定期的に理容・美容が訪問しているのでそれを利用している。また、外出などにお化粧される方については、化粧品の在庫を確認し、なるべく継続できるようにしている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	以前行っていたお好み献立を行ってそれぞれの好みに合わせた食事をする機会を作りたい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	ご希望に合った買い物などの機会をさらに増やして行きたい。
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	今後もADLの変化に合わせて、排泄チェック表を利用し、排泄パターンの変化を常に把握できるようにしていく。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	仲の良い利用者同士で一緒に入浴され、親交を深めている。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	利用者一人ひとりに合わせた就寝時間を見つけ、安眠できるような支援体制を取っている。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	各利用者が得意とするものを出していけるような環境づくりを行い、一緒に行っている。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの残存能力に合わせて、買い物時には自分の財布から自分で支払って頂くという形で支援している。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や気候にあわせ、それぞれにあった外出をできるだけして行く様に支援しているが、冬場などはほとんど建物の外周、近くのみに限られている。	○	今後は暖かくなっていくので、それぞれのご希望に沿った外出を多く支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日の時などにご本人のご希望を伺い、行きたい場所に行けるよう支援している。また、意思伝達しづらい方は、バックグラウンド等から、馴染みのところを探したり、希望を汲み取るようにしている。また、入居者の体調に合わせて遠足も日帰りや一泊などをして旅行にでかけている。	○	普段いけない場所、行ってみたい場所などを伺い、もっと外出の機会を増やしていきたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置している方については、自由にかけられる環境になっている。また、そうでない方には、希望に合わせ、大切な人やご家族等に手紙を出したり、電話できるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に御家族や友人など馴染みの人達が訪問できるようになっている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束のない介護のための指針」を事務所に掲げ、職員が統一した意識で身体拘束をしないケアが出来るようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	全職員が応急手当や初期対応をあせらず出来るように、今後も研修を重ねていきたい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>体調急変時や何か変化があった時には、ご家族に詳しく説明させていただいている。また場合によっては、これからどのようなリスクが起きるのか、リスク軽減のためにはどうしたよいか説明し、対応策を話し合っている。</p>	
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日バイタルチェックをし、わずかな表情の変化などにも気を配るように努めている。デイサービスの看護師にも情報共有できるような体制をとっている。場合によっては、かかりつけ医に相談・受診もしている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬リストを作り、職員全員が確認して安全な服薬支援ができるようになっている。服薬変更になれば、常に更新している。また、内服薬の変更後には、一定期間症状の変化の確認を行っている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>出来るだけ下剤などの薬に頼らず、水分を多めに摂って頂いたり、ヤクルトなどの補助食品を活用しながら、散歩や体操を取り入れていくように心掛けている。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後と就寝前に利用者に合わせて口腔ケアを行っている。また、夜間は毎日義歯洗浄も行っており、歯ブラシ・コップなどの消毒を行っている。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量やバランス・水分量など職員間で個人台帳や申し送りなどで必ず伝達し合っており、不足時にはこまめな声かけや、補食などで補っている。摂取状況によっては主治医と相談することもある。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成して、感染時にはマニュアルに沿った対応をしている。また、流行する感染症の時期に合わせて、未然に消毒や予防を行っている。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的なまな板・包丁などの調理器具類の漂白をしている。布巾は毎回、次亜塩素酸ナトリウムにつけ置きし、その後滅菌庫にて滅菌乾燥している。テーブルや台所もその都度消毒している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、季節に合わせた花や植物を置いているほか、親しみやすい空間作りを心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快な状況が無いか話し合い、有る場合にはすぐに改善するように努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内に椅子やソファを用意したり、いろりを利用していただき、一人になれたり、気軽に利用者同士で話ができるようなスペースを確保している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	○	なるべく自信を持って、自立した生活ができるように、それぞれに合わせた環境づくりを臨機応変にしていきたい。
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		今後もデッキを上手く活用してできるものを行事などにして提供していきたい。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

いろり端水戸では、それぞれの利用者に合わせた対応をしています。これまで生活されてきた生活環境（美容室・理容室・病院・自宅など）との関係もなるべく継続できるようにしています。季節行事を多く取り入れたり、その時季にあった草花を飾ったりして、なるべく「今」を感じられるようにしています。自分らしく、自信を持って生活されるように、残存能力を見極めて出来るだけ長く維持できるよう、職員一人ひとりが利用者の皆さんに対して「少しの気づき」を大切に接していけるようにしています。

誕生日などには、一人ひとりのご希望に合わせたお祝いをさせて頂いています。普段、あまり行けないような温泉地や馴染みの場所、実家があった思い出の場所などへ外出される方や、ご家族と共にお祝いをされる方、グループホームで他の利用者の方々に祝福される方など、様々ではありますが、毎回利用者の方々も楽しみにされているようです。

犬と猫を飼っているので、アニマルセラピーとしても癒されているように見受けられます。また、職員が介護福祉士やレクリエーションインストラクター・認知症ケア専門士などの専門の資格や研修に参加し、取得しています。そこで学んだことを活かして、回想法・レクリエーション・ミュージックケアなどを随時行い、なるべく自分らしさを維持できるようなサポートをしています。